

No.	号	執筆者等	思い
7	1988年9月号	坂入4	私たち戦前、戦中に教育を受けたものは、幼時から成人になるまで、「日の丸」を国旗とし「君が代」を国家として習慣的に教えこまれてきた。(中略)しかし、自民党政府が「君が代」「日の丸」を初等教育から協力に取り入れ、推進しようとしているのを見ると、一種の危機感を覚えざるを得ない。(機関紙不戦No.7、1988年9月)
7	1988年9月号	宇都宮徳馬	軍縮の問題については深い関心と因縁をもって接しているのです。皆さんも、何十年か前に戦場におられ、元兵士としてここに集まられているのですが、皆さんもかならずなんらかの哲学をもって不戦の会をやってられるわけです。そして、その哲学の根本は「戦争は絶対にはいけない」ということだと思います。(機関紙不戦No.7、1988年9月)
7	1988年9月号	竹岡勝美	いま、「巻き込まれ」の有事論が主流になっています。(中略)だが、巻き込まれて戦禍が日本に「波及する危険のとき」、1億国民の安全のため、政府はどう対処すべきかの確答はいまだになされていない。日本の安全を守るべきはずの日米安保条約、在日米軍の駐留のため、日本に何の関係もない中東などで起きた米ソ紛争の波及によって、日本が攻撃されては何のための安保条約なのでしょう、疑問に感じます。(機関紙不戦No.7、1988年9月)
7	1988年9月号	長井清	戦後43年経過した現在、平和にどっぷりつかって平和慣れしてしまった人たちに戦争の恐ろしさ、悲惨さをあじわってもらうのも大切なことだと痛感し、小生自身の貴重な体験の内、鮮明な記憶の部分伝えたい、また、鎮魂、懺悔の記録としたいと願う気持ちが筆を走らせた。(中略)非常に厳しくも、辛い、2度と嫌だ、という嫌悪感に襲われるものばかりだった。戦争は人を狂わし国を狂わすというが、小生の青春もまさにこの狂気の中にあった。(機関紙不戦No.7、1988年9月)